

「居心地が良く、使われる公共空間をつくるために」

プレイスメイキングの将来像を描くための「プレイス・ビジョン・ケースブック」を公開
～プレイス・ビジョンの作成方法等をまとめた日本初のガイド資料～

独立行政法人都市再生機構(以下、UR都市機構)は、居心地がよく、使われる公共空間を作るため、一般社団法人ソトノバと共同研究を行い、プレイスメイキングの将来像を示す「プレイス・ビジョン」の作成方法等を、先進事例をもとにまとめた「プレイス・ビジョン・ケースブック | プレイスメイキング・ガイド」*1を国内で初めて作成、公開しました。これにより、まちづくりにおいて、関係者間でのより円滑なパブリックスペースの将来像の共有や、効果的な意向調整が可能となります。居心地が良く、使われる公共空間をつくるために、是非、ご活用ください。

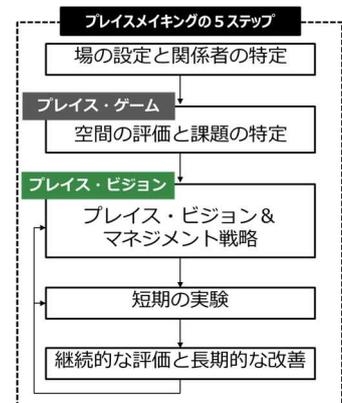
■ プレイスメイキングとは？

「公共空間における居心地の良い居場所づくり」というプレイスメイキングはアメリカが発祥ですが、人や組織によって考え方が異なります。

UR都市機構が考えるプレイスメイキング*2は、ひとの欲求やひとの活動から公共空間のあり方を考え、公共空間にひとりひとりの居場所をつくる手法として定義しています。例えば、誰もが自由に利用できる公園や駅前広場といった公共空間を、ユーザーの立場から、居心地が良く、使われやすい空間にすることで、他者やまちとの関わりが生まれるような場所を目指すことです。

■ 「プレイス・ビジョン」について

「プレイス・ビジョン」は、パブリックスペースの将来像を可視化し、関係者で共有するためのものです。先進的にプレイスメイキングに取り組むアメリカのNPO団体のPPS*3が提唱するプレイスメイキングでは、プレイスメイキングの準備段階と実行段階をつなぐものとして「プレイス・ビジョン」を取り入れています。利用者や担い手の視点でプレイスメイキングの方針が整理され、場所の特性やその場所で考えられるアクティビティ、それを実現するための行動等が記載されています。作成後も関係者間の継続的なコミュニケーションツールとして参照されます。



<PPSのプレイスメイキングプロセス>

■ 「プレイス・ビジョン・ケースブック | プレイスメイキング・ガイド」について

この「プレイス・ビジョン」はアメリカ等のプレイスメイキングで実際に作成されてきたものの、作成方法等について、日本では馴染みがないものでした。

そこで、今般の共同研究では、アメリカで作成された「プレイス・ビジョン」の実例をひもとき・考察しながら、「プレイス・ビジョン」の内容や作成方法、活用可能性をまとめ、日本に適用させたケースブックを作成しました。準備段階として、空間の評価と課題の特定を行う「プレイス・ゲーム」(ワークショップ)については、2021年にガイドブック*4を公開しており、今回の「プレイス・ビジョン・ケースブック | プレイスメイキング・ガイド」は、その続編であり、プレイス・ビジョンの作成に関連する国内初の資料となります。居心地が良く、使われる公共空間をつくるために、是非、あわせてご活用ください。

■ 今後の展開について

今後とも、実際の実践を通じて得られた成果や課題を踏まえて、UR都市機構のプレイスメイキングやまちづくり等に活用していく予定です。

※1 「プレイス・ビジョン・ケースブック | プレイスメイキング・ガイド」は、下記URLから閲覧・ダウンロードしていただけます。

<https://sotonoba.place/place-vision-guide>

※2 UR都市機構が整理したプレイスメイキングの考え方は、下記URLから閲覧していただけます。

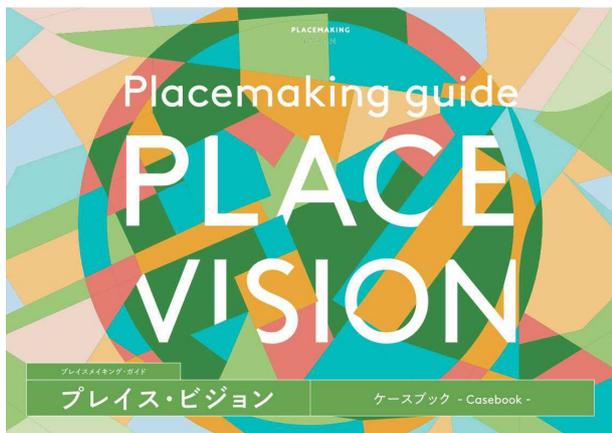
https://www.ur-net.go.jp/aboutus/action/placemaking/chukantorimatome_kousin.html

※3 Project for Public Spaces：先進的にプレイスメイキングに取り組む海外のNPOです。

※4 プレイス・ゲームのガイドブック(「プレイス・ゲーム | プレイスメイキング・ガイド」)は、下記URLをご参照ください。

https://www.ur-net.go.jp/aboutus/action/placemaking/guide_koukai.html

＜プレイス・ビジョン・ケースブック | プレイスメイキング・ガイド＞



【問合せ先】 本社 広報室 報道担当	(電話)045-650-0887 輿水、大西
アセット戦略推進部	(電話)045-650-0492 藤田、細谷
技術・コスト管理部	(電話)045-650-0651 小野

＜UR 都市機構について＞

UR 都市機構の歩みは戦後の住宅不足解消に端を発しています。1955 年から様々なステークホルダーとともに、時代時代の多様性に即し、安全・安心・快適なまちづくり・くらしづくりを通して、「人が輝く“まち”」の実現に貢献してまいりました。そしてこれからも、変化する社会課題に挑戦し続けることで皆さまにお応えし、「人が輝く“まち”」づくりに不可欠な存在でありたいと考えております。これまで培ってきた持続可能なまちづくりのノウハウをいかし、都市再生事業・賃貸住宅事業・災害復興支援・海外展開支援に全力で取り組んでまいります。

<https://www.ur-net.go.jp/>